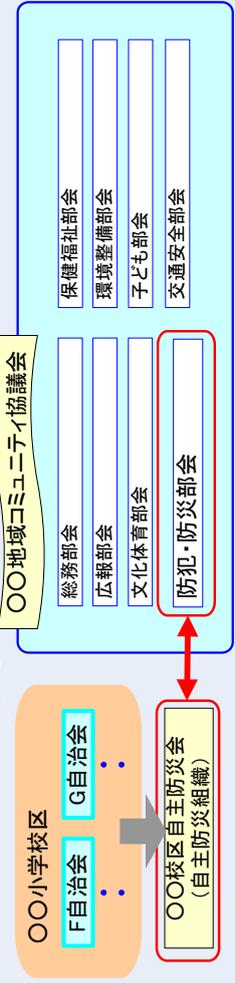


戦略	目標	対策1	対策2	対策3	対策4
	最終目標	防災立県の風土を醸成する 被災経験を生かし、新潟スタイルの防災文化を創造し、発信する			
	基本方針	あらゆる主体の力を集めて効果的に災害に対応する 地域による、地域のための防災力向上にチャレンジする			
	基-1	各主体が連携・活動するための方針を確立する			
	基-1-1	行政でできること、民間でできることを周知して、後は個人で判断するというルールを形成する			
	基-1-2	初動時に誰が誰を助けるかという体制を明確にする			
	基-1-3	災害やリスクの種類によって地域の役割を確立する			
	基-2	連携・応援体制を整備する			
	基-2-1	災害対応に関わる主体の連携に関わる会議を定期的に行う			
	基-2-1-1	地域で定期的な訓練を実施する			
	基-2-1-2	行政と地域が協働して地域ぐるみの訓練を実施する			
	基-3	各主体における防災組織を整備する			
	基-3-1	行政の組織を強化する			
	基-3-1-1	緊急時の対応を折り込んで平時の体制を構築する			
	基-3-1-2	市町村の24時間体制を確立する			
	基-3-3	災害対応にあたる専門の組織を設ける			
	基-3-2	企業の防災体制を整備する			
	基-3-2-1	企業で培った経験を災害対応に活かす仕組みを確立する			
	基-4	地域力のある地域コミュニティを育成する			
	基-4-1	コミュニティの大切さを知る			
	基-4-1-1	隣組の交流を進める			
	基-4-2	コミュニティの防災体制を整備する			
	基-4-2-1	防災リーダーを育成する			
	基-4-2-2	自主防災組織の充実を図る			
	基-4-2-3	平時から自分たちの地域をよくしていきたいという基本的・継続的な考えで防災対策を推進			
	基-5	ボランティアが活動できる体制を整備する			
	基-5-1	ボランティアの受け入れ体制を整備する			
	基-5-1-1	ボランティアセンターの支援力を充実する			
	基-5-2	ボランティア活動に関わる標準的な手続きを構築する			
	基-5-2-1	ボランティアの効果的な初動対応を考える			
	基-5-2-2	ボランティアの経験を対応に活かす仕組みを確立する			
	基-5-3	ボランティアに必要な経費を確保する			
	基-5-3-1	ボランティアとの連携に関して、災害対応資源のアウトソーシングとして促進する			

《地域における防災・防犯対策の取組み》

【地域における防災・防犯活動組織】



地域コミュニティ協議会の防犯・防災部会は、自主防災会の担い手となっているケースがある

【自主防災会(自主防災組織)による取組みの一例】

- 活動主体
 - ・白山浦2丁自主防災会(中央区)、鏡淵小学校(中央区)
- 経緯
 - ・地域住民の高齢化や地域住民と学校及び事業所の連携強化の必要性
 - ・関係者代表による連絡会での検討の末、訓練実施
- 概要
 - ・地域、学校それぞれの対応による避難訓練
 - ・地域と学校の連携による引き取り訓練
 - ・参加者全員によるはつらつ体操
 - ・各種体験訓練(車いす介助訓練、地震体験車による地震体験、心肺蘇生法訓練、給食給水訓練、地震に関する啓発用ビデオ上映)
- 活動の成果
 - ・地域と学校の協働事業のため、多くの参加者を得た(町内会、学校職員、児童、保護者合計653名)
 - ・災害時における地域と学校、家庭の協力体制について訓練を通じて検証がなされ、今後に向けての検討材料とすることができたこと



写真 訓練の様子

②住民による避難所運営訓練

- 活動主体
 - ・有明益校区自主防災会(中央区)
- 経緯
 - ・新潟県中越地震や中越沖地震を契機に避難所に参加した後の検証が提案された
 - ・自主防災会役員が中心となり事前会議を実施
 - ・はじめての実施のため、完璧なシナリオを作成せず、問題点を発見、検証する訓練とした
- 概要
 - ・災害時要援護者名簿に基づき安否確認・情報収集訓練
 - ・一時避難場所への一次避難及び避難所への二次避難訓練
 - ・班を分けての避難所運営訓練
 - (本部・総務班) 避難所全体のとりまとめ、各班への指示出し
 - (情報班) 避難状況の把握、避難者名簿の作成
 - (救護班) 避難者の受入れ、災害時要援護者への対応
 - (環境班) 避難所環境の整備(暖房設置、ござやマット敷き、ゴミ対応)
 - (食料物資班) 非常食の炊き出し、物資の受入れや保管
 - ・心高手当講習、中越地震の際の避難所での事例紹介など
- 活動の成果
 - ・訓練終了後の意見交換会でうまくいかなかった点の検証が行われ、その反省を生かした訓練を次年度以降も継続して行うこととなった
 - ・自らできることを考えて行動する意識付けや自分は何をしなければならないかを考える意識付けがなされた



写真 訓練の様子

【犯罪のない安心で安全なまちづくり支援モデル事業による取組みの一例(H19年度分)】

- ①セーフティ・ネットワークによる地域の安全・環境健全化対策
 - 活動主体
 - ・新潟市東港セーフティ・ネットワーク(北区)
 - ・北区南浜地区及び木崎地区の各自治会、地域コミュニティ協議会、警察署、市職員からなる組織
 - 経緯
 - ・殺人事件や盗難事件が発生
 - ・ゴミの不法投棄などの治安や生活環境に対する不安が住民に広がる
 - ・新潟市の「防犯活動モデル地域(セーフティゾーン)」に指定される
 - ・南浜地区及び木崎地区のそれぞれの活動を北区として一体化
 - 概要
 - ・「青パト作戦」(青色回転灯車による防犯パトロール)
 - ・青色回転灯車を使用し、小中学校の下校時にあわせ防犯パトロールを実施するとともに、ルートと状況を日誌に記録し、外国人の状況把握を行った。
 - ・生活マナー、交通ルールの街宣広報
 - 活動の成果
 - ・地域全体での取組みや活動を実施したため、犯罪に対する地域の監視性が向上し、犯罪発生件数の減少につながった
 - ・地域住民の防犯活動の参加機会が確保され、参加者が地域の状況を認識することができ、防犯意識の高揚につながった
 - ・外国人による夜間の騒音など周辺住民への迷惑行為に対する対策として、夜間パトロールの実施につながった
 - ・周辺企業の参加による国道7号新タバイパス豊栄インタナー周辺及び島見緑地公園周辺のクリーン作戦を実施するなど、地域総動員の取組みにつながっている



写真 団体設置総会



写真「青パト作戦」の様子



写真「クリーン作戦」の様子

②セーフティゾーン活動委員会による環境健全化対策

- 活動主体
 - ・新潟駅前地区セーフティゾーン活動委員会(新潟駅前地区)
 - ・商店街組合、業界団体、自治会、防犯団体等
- 経緯
 - ・強引な客引きやスカウトが後を絶たず、地域住民や行人の不安が高まる
 - ・地域全体で防犯活動に取り組み新たな団体の結成が必要
- 概要
 - ・フーケショップの実施
 - ・「客引き」、「スカウト行為」、「ピンクピラ」を一掃する環境健全化パトロールの実施
 - ・簡易防災機器整備(駅前商店街への防犯カメラの設置及び設置表示ステッカー、のぼり旗の掲示)
- 活動の成果
 - ・新潟駅前設置された民間交番「新潟駅前安心ステーション」が拠点となり、パトロールの実施、ピンクピラの除去、スカウト対策等が進展した
 - ・地区内の環境健全化への関心が向上した
 - ・パトロール実施期間中は、違反行為の防止が図られた



写真 活動委員会設置会議



写真 新潟駅前安心ステーション



写真 防犯カメラと表示ステッカー



写真 環境健全化パトロール出発式